



種たねができない植物しよくぶつは、どうやってふえるの

分身ぶんしんを作つくってふえる

種たねができない植物しよくぶつは、さまざまのほうほうほうほうで、子孫しそんをふやしています。

ウキクサのように、自分と同じ分身ぶんしんの子どもを作つくってふえるものや、イチゴやオリヅランのように、枝えだをのばした先さきに根ねが出て、分身ぶんしんの子どもができるものがあります。

イモや球根きゅうこんでふえる

ユリやマノイモのように、くきの葉はのつけ根ねに、むかごむかごができて、これが地面じめんに落ち、芽めを出だすものもあります。

ジャガイモやサツマイモやダリアのように、地下ちかにできたイモから、次つぎの年としに芽めを出だし、ふえていくものや、ユリや、チューリップなどのように、地下ちかにできた新あたしい球根きゅうこんからふえていくものもあります。

キクなどのように、株かぶが毎年まいとし、だんだん大きおおくなってふえ、広ひろがるものもあります。

さし芽めでふえる

キク、アジサイ、ホウズキ、ペゴニア、バラなどは、温度おんどや水分すいぶんなどの条件じょうけんがよいとき、葉はやくきを切きって、土つちにさしておく「さし芽め」で、根ねが出て新あたしい株かぶになります。最新さいしんの技ぎ術じゆつでは、植物しよくぶつからとり出した細胞さいぼうをふやして、親おやのよい性質せいしつだけもった、新あたしい植物しよくぶつを育てることまで、できるようになっています。

(監修・矢野 亮)

